

令和4年度 第6回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和4年9月8日(木)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後4時20分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 港 耕作
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 欠席
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

- 1 開会
定刻、定足数に達しており、令和4年度第6回教育委員会定例会を開会した。
- 2 令和4年度第5回定例会会議録の承認について
承認
- 3 議事
議案第16号 垂水市教育支援委員会の答申について

報告第23号 令和4年度 垂水市一般会計補正予算(第3号)案についての市長への意見申出について
- 4 その他
- 5 委員並びに教育長及び課長報告
- 6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
議案第16号 垂水市教育支援委員会の答申について	垂水市教育支援委員会の答申を受けて、児童生徒の望ましい措置を決定しようとするものである。	特記事項なし	
報告第23号 令和4年度垂水市一般会計補正予算（第3号）案についての市長への意見申出について	令和4年度垂水市一般会計補正予算（第3号）案の作成について、教育長の臨時代理により、差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	

議 事 内 容 等

3 議 事	議案第16号 垂水市教育支援委員会の答申について
学校教育課長	垂水市教育支援委員会の答申の内容について説明。 (非公開) (議案第16号 承認)
	報告第23号 令和4年度垂水市一般会計補正予算（第3号）案についての市長への意見申出について
教育総務課長	令和4年度垂水市一般会計補正予算（第3号）案の作成について、教育庁の臨時代理により、「差し支えない旨」回答したことを報告するとともに、その内容について説明。
田原委員	中学校教育振興費の部活動の地域移行に係る協議会の謝金、費用弁償とありますが、具体的に地域の方が動かれることがあるのか。
学校教育課長	文化庁、スポーツ庁が教員の働き方改革の一環、また、生徒数の減少によりチーム編成できない状況がこれからも想像できるということで、休日の部活動に地域の方々を指導員として受け入れて、先生方がタッチしない

体制をつくるということが基本的な路線である。これが定着していけば、平日も後々そのような対応になるのですが、当然、指導者の確保の問題もですが、それに伴う指導費について謝金が発生します。その費用を国・県・市で1/3ずつ負担するという形で進めていかなければならないが、今回、それぞれのスポーツ連盟・中学校・色々な方面の代表の方々に集まっただいて協議会をつくり、そのなかで進めていきたい。そして可能な限り令和5年度からできる種目からしていきたいと考えている。とりあえず、全ての部を移行するという前提で、協議会を設置しスタートしたいと考えております。その協議会に来ていただくための謝礼、費用弁償でございます。

教育長 そうした場合の一番の課題は何か。

学校教育課長 様々な課題があるが、指導者の確保が一番大きい。それから、中体連の大会は必ず教員が監督でなければなりません。今でも水泳、空手等の競技は、実際は指導していなくても大会に出場する時には、学校の教員がつかないと試合に参加できないという課題がある。次に外部指導者が教えるとなれば、保険の問題が出てくる。部活動ではないという捉え方になると学校の保険が効かなくなる。保護者負担が増えていくという問題もある。部活動だと保護者負担は今のところ基本的にはかからないが、今後どうなっていくか。現在、市の施設を無料で使用し部活動を行っているが、スポーツ少年団だとお金を支払っているが、そこをどう調整していくか。結局、教育課程の中に位置付けた部活動から離れていけばいくほど、お金が色々掛かってくる。そこを保護者が負担するとなると、部活動をできない子供が増えることも予想される。強い部活になればなるほど、遠征費等も掛かってくる。保護者負担が大きくなるので、そこをクリアしていかないと完全に移行するのは難しいと思う。市も1/3負担となれば、今までなかった指導者へ支払う予算が発生する。また、その種目に指導者は1人でいいのかという問題も考えないといけない。1人では責任を取れないからせめて2人体制にしてくれとか、そういうこともこれから協議会で話が出てくると思う。

教育長 大きな課題を抱えながらの移行ということである。その根底には、どうしても部活の負担が大きいというところの教員の働き方改革がある。指導者の確保の問題、保護者負担の問題、練習の場の問題もある。また、自治体も費用の1/3を負担しなければいけないので、自治体間の格差が出てきたら、本当の公教育の部活かという問題が出てきてなかなか難しい。色々な問題があると思うので、できるところから移行する。一つ一つ階段を上るようにして最終的には全部移行できることを描きながら、時間も労力も掛かるだろう。

田原委員 今、協議会ができた段階か。

学校教育課長 補正予算が通り次第、協議会を開きます。来年度予算も計上しないといけない。ある程度1回目の協議会で話を聞いて集約して、2回目で方向性

	を出さないといけない。そうしないと予算が組めない。遅くとも10月上旬には協議会を立ち上げないと間に合わない。
田之上委員	最初は地域の方は土日だけの指導で、平日は先生が教育的配慮のもとでの指導だと思うが、地域の指導者は強いチームをつくりたいという気持ちから技術的向上を重視すると思う。その辺の連携をしっかりとっていただきたい。先生も技術的な部分にも一緒に入って口を出せる体制をつくっていただきたい。
学校教育課長	その種目を専門にやってきた先生が顧問になれば、指導したくて仕方ないと思うが、逆に全くやっていない競技の顧問になれば先生も辛いところがある。
教育長	中央中の部活動の数は。
学校教育課長	文化系まで入れて現在12である。
福里委員	機能していない部活もあると聞いている。剣道部は、生徒が練習に行ったら顧問の先生が来ていなくて帰らされたようだ。最初から明日は部活動はないと連絡してくれたらいいのにと保護者がこぼしていた。また、バレー部は少しやりすぎじゃないかという声が聞こえてくる。朝練、昼練、夕練という感じで練習をしているが、結局、疲れて授業中居眠りをするバレー部の子がいるみたい。すごく熱心でいい先生だが、やっぱり授業がおろそかになったらいけないという考えの保護者もいる。いい先生なのは分かるが、その先生が熱すぎてついていけない生徒もいるらしい。また、その先生に任せていればすごくいい子になると思っている保護者もいて、温度差があるという話を聞く。保護者は何でもよく知っていて、その先生は初心者をやうまくするのが上手らしいとか、鹿屋東の先生は上手な子を更にするのが上手らしいという話をしていた。 また、内申書に書いてもらえらるから、とりあえずは部活には入っていた方がいいと考える保護者もいるのかなと思う。サッカーにしても野球にしても頑張りたい子が部活には入らない。
田原委員	働き方改革で新たな問題が出てきまようだ。
教育長	教職員の二極化は既に始まっている。熱血漢で一生懸命頑張る先生と、これくらいでいいやという考えの先生と。
福里委員	子供も一生懸命頑張ることを好まない子も多くなってきている。一生懸命頑張りたいわけではないけど、一応部活には入っておきたいと考える子もいるらしい。だからバドミントンや卓球部に入る子が多いらしい。それほど土日の拘束がないのもあると思うが、バレー部に関しては、毎週土曜日に練習試合が入っていると聞いている。

葛迫委員	顧問がいないと練習できないのですか。
学校教育課長	基本的には安全面を考えると、顧問がついていなくて子供が怪我をしたら大変な問題になる。何か起これば学校（校長）の責任問題に発展する。
教育長	この部活の地域移行については、今後、協議会を開いたら途中経過の報告が学校教育課長からあると思います。
4 その他	
田之上委員	夏休み中に事故があった樹木の問題。垂水市の状況はどうだったか。
教育総務課長	曾於市高岡小学校での事故を受け、翌日には市内全小・中学校の樹木について、学校の管理職立ち会いの下、本市教育委員会職員による調査を実施しました。さらに、その結果をもとに専門業者による詳細な調査を実施し、危険な樹木、伐採した方が無難と思われる樹木、延べ30本あまりを夏休み中に剪定、伐採し、児童生徒・教職員の安全を確保し、無事2学期を迎えたところでございます。
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	<p>8月8日に水之上小学校で開催された、移動教育委員会は、昨年実施できなかった会だったので、まずは実施できたことが何よりであった。参加者が絞られていたのかやや少なかった気がする。参加者の方々は意識が高く学校を盛り上げていこうというという方々ばかりなので前向きな意見が多かった。コロナ禍でいろいろな活動が実施されていないが、収まればまた前のように実施していこうという意欲にあふれていることが分かったので、今後に期待が持てるのではないかと思う。</p> <p>2学期のスタートがスムーズに切れただろうか。8月19日は出校日、この日までに夏休みの宿題を済ませ提出するようになっていっていると聞いていいことだと思った。夏休みの終わりまで嫌な気持ちを持ち込ませないで済むことは、不登校対策にもなるのかなと思う。その後の過ごし方はどうなっているのか聞きたいところである。市教委が取り組んでおられる「心はればれ学習会」（8/29）はどうだったのだろうか。質問をいっぱい抱えた子供たちが参加したのであろうか。</p> <p>9月6日に起きた、静岡県牧之原市の「川崎幼稚園」の通学バスに取り残された三歳の園児が死亡した事件は、昨年が続いて、またかとショックであった。わずか6人しか乗っていないバスで降りていないことをどうして確認できなかったのか。子供たちも、どうして誰ちゃんが降りていないよと言わないのか。まずは、どうして運転手や補助者がみんな降りたか確認しないのか、担任は来ていないことに気付いていたが、何故保護者に連絡しなかったのか。いくつもの初歩的で基本的なミスが重なって、大事な命</p>

を失ってしまった。閉じ込められたら泣きわめく、扉をガンガン叩くなど子供にも自己防衛手段を教えておかないといけないのか悲しくなってしまう。

葛迫委員

令和4年度第73回鹿児島県図画作品展が8月24日(水)から28日(日)まで県歴史資料センター黎明館で開催されました。県内の幼稚園・保育園及び小・中学校、特別支援学校から集められた1,228点の作品の中から、特別賞46点、特選90点、入選269点、合計405点の作品が選定されました。県美育協会会長野添浩一先生は、「各学校での校内審査、市町村単位での地区審査を経て選ばれた作品は、甲乙付けがたく、決定に時間を要するものもありました。」と説明されていました。垂水市の地区審査から選出された9点の作品については、水之上小学校2年生の平野夢乃(ひらのゆめの)さんと、垂水中央中学校1年生の岩崎絢楓(いわさきあやか)さんの二人が入選していました。

平野夢乃さんは、《フェリーにのったよ》と題した作品について、「遠足で鹿児島の水族館に行った時、フェリーに乗った事が嬉しかったので描きました。」と作品の主題にあげていました。地区審査の時から面白い作品だと感じていましたが、青いトラックや赤い乗用車など綺麗に整列された車や自分達乗客の様子を思い出し、フェリーの中だけをきめ細かに描いたところが評価されたと感じました。自分が描きたいところは何処なのか。そこに焦点を絞ったところがいいと思いました。

岩崎絢楓(いわさきあやか)さんは、《バイク屋の日常》と題した作品について、「全体が明るい雰囲気になるように、いろんな色を足してみたり、水でぼかしてみたりして、明るい感じを表現しました。」と作品の主題にあげていました。重たい部品を持ちながら無心にバイクを修理するバイク屋の主人の姿と全体を明るく仕上げようとする作者の思いには対比を感じます。作品を制作する上で「対比」ということを考えることは非常に大事だと思います。題名もそうですが、現在世界を見渡してみると戦争や様々な事件、そして様々な感染症問題など生きることの大切さ、一生懸命に生きること自体が「日常」だと教えてくれる作品だと思います。

そして、日常をよく観察する。もっともっとよく観察して、バイク屋の主人の額から汗が流れ、油で顔が汚れている様子が描けると、更に上の賞に手が届くのではないかと考えています。将来が楽しみです。

田之上委員

8月の移動教育委員会では、水之上小学校にお邪魔させていただき、地域代表の方々とお話をさせていただきました。水之上で生まれ育った方、転入・転居して来られた方、それぞれおられると思いますが、ご当地で子育てをされその地に深く根を下ろして地域に貢献されている方々なのでとても頼もしく思いました。子供の数の減少をはじめ、コロナ禍が続き、各種行事や伝統の継承が難しい状況にあるとのことでしたが、地域で力を合わせて解決していかれるであろうと期待しています。

今年の夏は、行動制限がなかったこともあり、旅行に行ったり、親戚で集まったりした子供たちも多かったように思います。「～して楽しかった

よ。」と報告してくれる子供たちの様子をみると、こちらもとても嬉しく感じることでした。

始業式の朝、中央中であいさつ運動に参加しましたが、元気な声と明るい顔の生徒が多く安堵しました。2学期もマスク・消毒・換気の日常が続くでしょうが、学習、スポーツ、文化の秋が実りあるものでありますように、そして、子供たちが楽しい学校生活を送れるように願っています。

福里委員

子供たちは長い夏休みが終わり2学期を迎えた。夏休み中も友達がコロナに感染したりして、何かと今年も制限のある夏休みとなった。2学期が始まり、中学校は9月1日、2日に実力テストが実施された。一年生の英語のテスト内容が難しく平均点が低かったようである。テストを作成された先生は、今年度鹿児島市から赴任された先生である。垂水の子供たちは、鹿児島市内の子供たちと比較し学力差があるので、そういう難しいテスト内容に慣れることで、公立高校の試験対策ができるのではと思った。現在は18日の体育大会に向けて練習を行っている。中学校は生徒会の提案で熱中症対策として9月30日までは、体育服での登校が可能となった。これは生徒からの要望だったらしく、生徒たちの意見がいろいろ取り入れられることは素晴らしい事だと感じた。生徒がいろいろな意見を出し合いながら学校がよい方向に進んでくれるといいなと思うことである。

教育長

第47回垂水市社会福祉大会がコロナ禍の中、3年ぶりに規模を縮小して開催されました。今回は、一般の方の社会福祉に関する表彰、子供の保健・福祉作文コンクールの表彰、それから「講演会」で構成されていました。社会福祉に関する表彰では、次の方々表彰されています。下瀬眞由美さん。ご存じでしょうか。民生委員・児童委員として御尽力されている方です。川畑三郎さん。議員さんでもあります。協和地区の社会福祉協議会で御尽力いただきました。立山幸則さん。この方も同様ですが、社会福祉事業施設（垂水華厳園）の長として10年御尽力頂きました。小牟田哲二さん。社会奉仕活動の模範者として表彰されています。それから、これは非常にいいなと私が思ったのが、家庭内の介護者ということで、7年以上にわたって家庭で献身的な介護を行っておられるという事で、宮ヶ原節子さんが表彰されております。このようなことで、その背景等を考えますと、非常に社会福祉等に御尽力頂いているんだなと改めて思うことでした。

それから、保健・福祉作文の方は、学校教育課長が中学生の部の審査員をしてくださいました。小学校下学年の部門の最優秀賞が、柗原小学校2年の黒川栞奈さん。読み方もとてもよかったですね。「行きたいところに行けるように」という題名で、非常に心温まるお話でした。小学校上学年の部は、水之上小学校6年の西原一花さんの作品。これが先程来話題になっている、「私とゆきやさん」。ゆきやさんとの関わりをずっと描いている作品。これもよかったですね。何と言ってもよかったと思ったのが、中学生の部。中央中1年の濱田真千子さんの作品、タイトルが「いつまでも、ずっと」、彼女は新城小学校の卒業生。皆さん、御承知のとおり、新城地区は「ふるさと先生」が学校教育を凄く盛り上げてくださり、地域のこと

も、学びを深めてくださる。その事に対する感謝の気持ちと、自分も何か地域の活性化のためにできることはないだろうかということを訴えるような作文でした。この子は元々新城ではなく、転校してきたようですが、新城というところは、昔から子供を育てる土壌があるところでした。そのような伝統が今でも根付いているんですね。あと、高校生の部が鶴川莉乃さん。タイトルが「祖母の健康作りからの学び」。「どうしておばあちゃん、そんなに元気なの。やることがいっぱいあるからだよ。」ということで、やっぱりそういう発想は大事なことだなと思いました。やることがいっぱいあることが健康の秘訣だということです。子供たちも作文、表彰の場面もそうなんですが、元気を貰います。このような場を提供すること自体が大事なんだと思うことでした。

その後の、鹿俣さんの講演会もよかったですね。コロナ対応で、教育委員、課長さんにも案内がなく、私が代表で聞いてきましたが、鹿俣さんは面白いですよ。柘原で、鹿俣体育研究所と壁に書いてあるところのオーナーなのですが、非常に興味深い方でした。今でも柔道の2年連続シニアチャンピオンみたいですよ。そして、あの奥さんは、すもうも全国で3位。そんな人がおっしゃるからなるほどと思うわけです。体力・健康づくり、その為にはやはり運動は大事だと紹介してもらいました。それと、先程からよく笑っていますが、笑いが大事なんだそうです。笑う疑似体験が凄くいいのだそうです。ご主人との夫婦仲も非常によく、漫才を見ているみたいでした。奥さんは柘原の方。ご主人は山形の方です。奥さんもご主人も鹿児島と山形を行き来されているようです。どちらも日体大を卒業されていてスポーツの専門家ですよ。旧姓、瀬戸口由美さん。いい話をして頂きました。何よりそれが健康に繋がるということがよかったです。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長
国体推進課長

8月9日から9月8日までの主な行事等について各課長が報告。
併せて、9月9日から10月7日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会